
十三対の恐怖

聖闘士

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

十三対の恐怖

【Nコード】

N8434I

【作者名】

聖闘士

【あらすじ】

これは十三対の人と椅子にまつわる、誰も知らない物語

——彼は、わずかな金銭と引き換えに、彼の師であり、人々に『聖者』とたたえられる人物を殺した。

死体は地中深く埋めたため、見つかる恐れはない。

後に残ったのは、座るべき主を1人失った13脚の椅子のみ。彼の罪を証明するものは何も存在しないはずだった。

——しかし数日後、晩餐会は行われた。以前と同じ顔ぶれで・・・

・・・ありえない・・・

彼は恐怖した。師が蘇ったことをではない。彼の犯した罪によって師に裁かれることを恐れたのだ。

恐怖に駆られた彼は、何度も師を殺そうと試みた。

首をはねる。

油をかけて燃やす。

野犬に喰わせる。

棍棒で叩き潰す。

重石をくくりつけて海に沈める。

彼は考えつく限りの方法を使って、師を殺し続けた。

しかし次の晩餐会では、師は何事も無かったかのように出席してくる。

そして、何事も無かったかのように椅子に座り、何事も無かったかのように彼に笑いかける。

——まるで彼に、自らの犯した罪を見せつけるかのように・・・

人知れず追いつめられた殺人者は、次にとるべき行動を定めた。

晩餐会の前夜、礼拝堂に忍びこんだ彼は師のいつも座っている椅子を叩き壊した。

その瞬間、彼は悪夢から解放された喜びに全身を奮わせた。

——師の帰るべき席はすでに失われた！
自分は罪から逃れたのだ！

彼は笑った。笑うという感情以外全てを忘れ去ったかのように笑った。そして、いつまでも笑い続けた。

——その翌日の晩餐会では、参加者は12人しか居なかったにも関わらず、空席は存在しなかった。
そんな、いつもとは違う光景でありながら、それに気付かぬ風で師はいつもと同じ言葉を発した。

「さあ、晩餐会を始めよう」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8434i/>

十三対の恐怖

2010年12月12日17時32分発行